佐賀県文化財調査報告書第 184 集

春日丘遺跡

（かすがおか）

－佐賀県療育支援センター通園棟建設に伴う埋蔵文化財調査報告書－

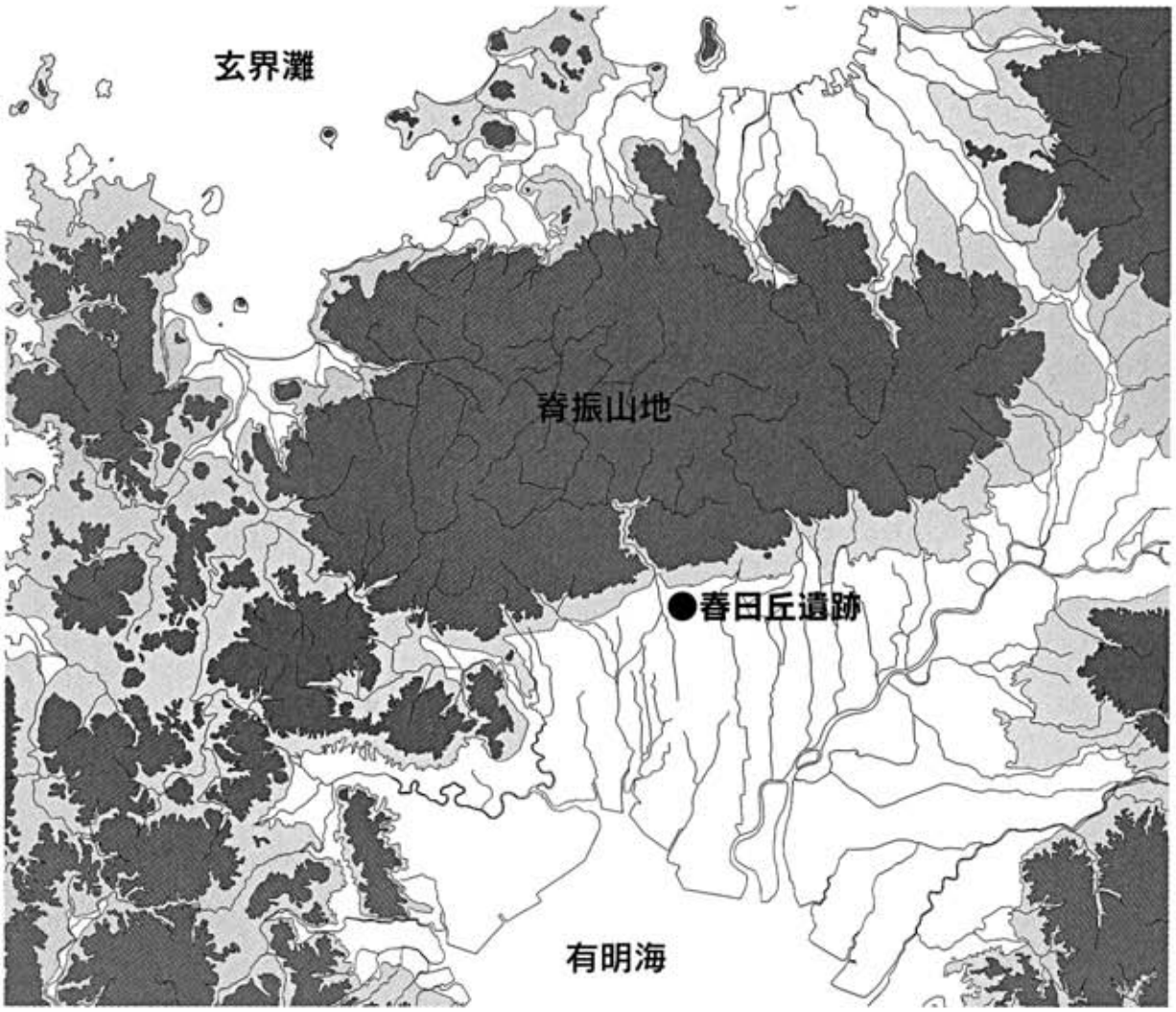
平成２２年（２０１０）年3月

佐賀県教育委員会

佐賀県文化財調査報告書第 184 集

春日丘遺跡

-佐賀県療育支援センター通園棟建設に伴う埋蔵文化財調査報告書－



平成２２年（２０１０）年3月

佐賀県教育委員会

序

本調査報告書は、佐賀県療育支援センター通園棟建設に伴い佐賀県教育委員会が実施した春日丘遺跡の埋蔵文化財調査報告書です。

春日丘遺跡の発掘調査では、鎌倉時代から室町時代にかけての掘立柱建物跡や土坑のほか、青白磁等の輸入陶磁器が発見され、当地が中世期の集落もしくは、有力者の屋敷地の一部である可能性が高まりました。

春日丘遺跡の所在する佐賀市大和町は、国庁や国分寺跡、国分尼寺跡、肥前西海道等、奈良時代を中心とする古代の官衙関連遺構が多数所在する地域です。今回の春日丘遺跡の調査や周辺で実施されている大和町域の文化財調査の結果から、本地域は、古代のみならず中世期も佐賀地域の中心地であったとみられます。

本書の内容が本県の学術文化の向上に寄与するとともに、佐賀市民のみならず県民の皆様に郷土の歴史を理解する上でその一助になれば幸いに存じます。

平成22年3月

佐賀県教育委員会

教育長　川　﨑　俊　広

例　　言

1　本書は、佐賀県健康福祉本部が佐賀市大和町に建設を実施した佐賀県療育支援センター（旧春日園）通園棟建設に係る埋蔵文化財調査報告書である。

2　発掘調査は、佐賀県健康福祉本部障害福祉課の依頼を受け、佐賀県教育委員会社会教育・文化財課が実施した。

3　春日丘遺跡の発掘調査は、文化財指導担当職員の協力のもと、細川金也があたった。また、文化財調査の実施にあたっては、重機及び作業員の手配等、文化財調査に係る主な業務を株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

4　調査記録の整理と報告書作成作業は、佐賀県社会教育・文化財課、佐賀県文化財調査研究資料室、吉野ヶ里遺跡発掘調査事務所で実施した。
報告書製作に従事された方は下記のとおりである。
遺物整理・実測・製図等：細川金也、奥知恵子、皆越弘子、馬場里美、秋吉京子、野口孝子、御厨瑞枝、株式会社埋蔵文化財サポートシステム、株式会社とっぺん

5　本書の編集は、細川が行なった。

凡　　例

1. 春日丘遺跡の略号はKAOである。春日丘遺跡のうち、春日園（佐賀県療育支援センター）に係る調査はこれまで２回実施されているため、今回は、春日丘遺跡３区（KAO－３）となる。
2. 遺跡の種別記号は、次のとおりである。
   SB：掘立柱建物、SK：土坑、SD：溝跡、P：柱穴。
3. 各遺構番号は、連番とする。
4. 本書に用いた方位は、国土座標第Ⅱ系の座標北である。
5. 遺構・遺物写真、遺構・遺物実測図は、佐賀県文化財調査研究資料室にて保管している。

本　文　目　次

第１章　調査の経過 …… 1
1　調査に至る経過…… 1
2　発掘調査の経過…… 1
3　春日丘遺跡に係る日誌…… 2
4　調査組織…… 2

第２章　地理的・歴史的環境 …… 3
1　地理的環境…… 3
2　歴史的環境…… 3

第３章　調査の記録 …… 8
1　調査の概要…… 8
2　春日丘遺跡３区の調査 …… 10
3　遺構…… 10
4　遺物…… 14

第４章　まとめ …… 18
1　春日丘遺跡の調査…… 18
2　春日丘遺跡周辺の状況…… 18

挿　図　目　次

第１図　春日丘遺跡周辺の遺跡分布図（1/25,000）…… 4
第２図　春日丘遺跡周辺の周知の埋蔵文化財包蔵地（１/12,500）…… 9
第３図　春日丘遺跡３区　遺構配置図（1/150）…… 11
第４図　SK01 土坑・平面図・断面図（1/30）…… 12
第５図　SB02 掘立柱建物跡平面図・断面図（1/40）…… 13
第６図　SB03 掘立柱建物跡平面図・断面図・SD ０４溝跡断面図（1/30）…… 15
第７図　春日丘遺跡３区出土遺物（1/2・1/4）…… 16
第８図　春日丘遺跡１・２・３区遺構配置図（1/500）…… 19
第９図　春日丘遺跡周辺の遺跡配置図（1/5,000）…… 20

写真図版目次

PL １　春日丘遺跡３区全景（北上空から）／春日丘遺跡３区全景（上空から）
PL ２　春日丘遺跡３区調査区西側（上空から）
PL ３　SK01 土坑検出状況（南から）／ SK01 土坑青磁出土状況（南から）
PL ４　SK01 土坑完掘状況（南から）／ SB02・03 掘立柱建物跡全景（南から）
PL ５　SD04 溝跡全景（南東から）／ SK04 溝跡断面（南から）
PL ６　春日丘遺跡３区作業風景１（南東から）／春日丘遺跡３区作業風景２（東から）
PL ７　春日丘遺跡３区出土遺物１
PL ８　春日丘遺跡３区出土遺物２

第１章　　調査の経過

１　調査に至る経緯

春日丘遺跡内に所在する春日園は、知的障害児施設として昭和 28 年に佐賀市大和町尼寺に設置された。この施設は、数次の増改築を経て、現在に至っている。なお、平成３・４年には、施設建て替えに伴い、本遺跡の発掘調査が、大和町教育委員会により実施されている。（春日丘遺跡１・２区）

平成 20 年５月、春日園と知的障害児の通園施設である「くすのみ園」を統合し、春日園の敷地内に新たな施設の建設が予定されていることから、佐賀県障害福祉課から社会教育・文化財課へ当該地の埋蔵文化財の照会があり、協議を開始した。

障害福祉課からは、佐賀県療育支援センターを平成 21 年４月に開所したいとの希望を持っているが、そのためには、おそくとも 10 月には通園棟の建設工事に着手する必要がある。文化財調査は、工事着手前に終了することが可能かとの打診を受けた。

社会教育・文化財課からは、市町と県教委との役割分担の説明を行い、当該事業は佐賀市が実施する事業であることの説明や当該施設の設計変更での対応が可能かどうかを含め、協議を複数回行った。

最終的に当該事業が、佐賀県の重要施策の一つであり、平成 21 年４月の施設開園の時期をずらすことができないため、佐賀県教委が文化財調査を実施することとなった。

ただし、本事業は、社会教育・文化財課の当初業務には含まれておらず、調査体制が必ずしも十分ではないため、文化財調査に係る諸事務については、障害福祉課の協力を得ながら進めることで合意し、平成 20 年８月に調査を開始することとした。

２　発掘調査の経過

春日丘遺跡の発掘調査は、県社会教育・文化財課から調査員１名を派遣し、調査に関わる重機や作業員の手配、詳細遺構実測業務、文化財調査に関わる安全確保を含めて、佐賀県障害福祉課が株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託することになった。

春日丘遺跡の調査は、平成 20 年８月 21 日に開始した。調査の対象範囲となる約 210㎡について安全フェンスで囲み、22 日からバックフォーを用いて表土掘削作業を実施した。25 日からは、作業員を投入した本格的な調査を開始した。

調査は、作業員による遺構の検出と掘り下げを継続して実施し、調査員による平板測量を用いて遺構配置図を作成した。９月 11 日には、空中写真を撮影し、その後、1/20 による遺構実測作業を行ない、重機による埋め戻しが終了したのは、９月 25 日となった。

21 年度には、前年度に実施した春日丘遺跡の整理作業を実施した。整理作業では、報告書作成に必要な出土品を選別し、実測を行なった。また、遺構の整理作業を行ない、現地では確認できなかった掘立柱建物跡１棟を新たに確認した。

佐賀市文化振興課から春日丘遺跡１・２区の遺構配置図を借用し、遺構配置図の合成を実施した。また、遺構及び出土品のトレースを外部に発注。報告書を作成し、刊行した。

3　春日丘遺跡に係る日誌

8月21日（火）　安全フェンスの設置
8月22日（水）　重機による表土剥ぎ開始。（25日迄）
8月25日（月）　作業員による遺構検出及び掘削作業開始。
9月10日（水）　遺構写真撮影
9月11日（木）　空中写真撮影
9月12日（金）　春日丘遺跡遺構平面図（1/20）作成
9月16日（月）　地層観察用トレンチ掘削・土層図作成
9月19日（金）　重機により埋め戻し作業開始（20日迄）
9月22日（月）　発掘機材等撤収作業
9月25日（木）　安全フェンス撤去作業。調査完了。

4　調査組織

調査主体　佐賀県教育委員会
調査協力　佐賀県健康福祉本部障害福祉課
佐賀市教育委員会文化振興課
調査組織（平成20・21年度）

総　括	佐賀県社会教育・文化財課	課　長	江島　秋人
	佐賀県社会教育・文化財課	参　事	東中川忠美（平成20年度）
		参　事	七田　忠昭（平成21年度）
調査総括	佐賀県社会教育・文化財課	主　幹	樋口　秀信（平成20年度）
	佐賀県社会教育・文化財課	主　幹	徳富　則久（平成21年度）
	佐賀県社会教育・文化財課	係　長	徳永　貞紹（平成20・21年度）
調査担当	佐賀県社会教育・文化財課	主　査	細川　金也（平成20・21年度）

第２章　地理的・歴史的環境

１　地理的環境

春日丘遺跡の所在する佐賀県は、九州島の北西部に位置する。県域の中央部を標高約 1,000 mの脊振山を主峰とする脊振山地が東西方向に走り、北は玄界灘、南は有明海に面する。このうち、南部の平野部には、穀倉地帯である佐賀平野が広がる。

春日丘遺跡は、佐賀市大和町大字尼寺に位置する。佐賀市は、佐賀県南部の中央に位置し、北は脊振山地から南は有明海、南東部は、筑後川に及ぶ。佐賀市の人口は約 238,000 人（平成 21 年 1 月現在）、面積は約 431㎢、佐賀県の県庁所在地である。この佐賀市は、2007 年 10 月 1 日までに旧佐賀市と旧佐賀郡６町（富士町、大和町、諸富町、川副町、久保田町、東与賀町）、神埼郡三瀬村と合併を完了している。春日丘遺跡の所在する佐賀市大和町は、旧佐賀市の北部に位置し、佐賀市のベッドタウンとして発展してきた。佐賀市大和町には、古代の交通路である肥前西海道が残されており、九州自動車道である長崎自動車道の佐賀大和インターが置かれ、また、国道 263 号線を北上し、三瀬峠を越えると福岡市へと通じることから、古代から現在に至るまで交通の要所となっている。

この佐賀市大和町の中央部を脊振山系に源を発する嘉瀬川が、蛇行しながら南流し、有明海へ注いでいる。この嘉瀬川は、山麓部では、急流であるが、大和町官人橋、惣座橋付近から平野部に入り、緩やかな流れになる。大和町の北部は、脊振山系の金敷城山や金立山（標高 502m）等を始めとする山麓部が連なり、その山麓裾部が南部の佐賀平野側へ延びる。この山麓裾部と平野部の境付近には、長崎自動車道が走る。山麓裾部と平野部の境は、概ね標高約 30 ～ 40 m付近になるが、それより南側は、嘉瀬川や黒川を始めとする中小河川により形成された扇状地地形となる。この扇状地には、畑や水田が作られ、また、黒川等の中小河川により一部開析された谷状の地形も認められるが、宅地化の進んだ現在では、地形の細かな起伏を窺うことは困難になりつつある。また、県道鳥栖・川久保線を境に、その南側には沖積地が広がるものとみられる。

春日丘遺跡の標高は約 15 mで、ほぼ、平坦な扇状地上である。東約 300 mを黒川が南東方向に向って流れるほか、遺跡の西側を水路状の河川が北原・宝満遺跡を分けるように直線的に南流する。

２　歴史的環境

春日丘遺跡の所在する佐賀市大和町には、古代に国庁跡や国分寺跡、国分尼寺跡が置かれるなど、佐賀県内で遺跡が密集する地域のひとつである。また、報告書も多数刊行されており、そのすべてを紹介する事は紙面も限られているため難しい。ここでは、嘉瀬川以東の主要な遺跡について述べる。

旧石器時代の遺跡は、ほとんど、知られていない。ただ、久池井一本松遺跡や惣座遺跡でナイフ形石器が採集されていることから、調査例は少ないながらも、遺跡は存在しているものとみられる。

縄文時代に入ると、調査例が増える。礫石遺跡では、包含層に伴うものではないが、縄文時代早・前期の押型文土器や条痕文土器、隆帯文土器、沈線・刺突文土器など約 300 点が石鏃や石匙等の石器と伴に出土している。岡裏遺跡では、早期の可能性が高い配石炉 1 基のほか、押型文土器 20 ～ 30 点出土している。東古賀遺跡でも包含層から押型文土器が石鏃等や剥片等を伴って出土している。縄文時代中期の調査例は少ないが、東古賀遺跡から器形を復元できる鷹島式土器が土坑から出土している。

第１図　春日丘遺跡周辺の遺跡分布図（1/25,000）

①春日丘遺跡　②久池井一本松遺跡　③惣座遺跡　④礫石遺跡　⑤東古賀遺跡　⑥尼寺一本松遺跡（南小路支石墓）　⑦尼寺一本松遺跡　⑧春日遺跡　⑨久池井六本杉遺跡　⑩北原遺跡　⑪一本木遺跡　⑫岡裏遺跡　⑬久池井Ｃ遺跡　⑭築山古墳　⑮国分寺跡　⑯国分尼寺跡　⑰久池井Ｂ遺跡　⑱宝満遺跡　⑲国分遺跡　⑳小川遺跡　㉑鍵尼遺跡　㉒館跡　㉓国庁跡

縄文時代晩期以降、支石墓を始めとする墳墓の検出例が増加する。東古賀遺跡では、黒川式期の壺棺1基が検出されている。礫石遺跡からは、支石墓とその下部構造である壺・甕棺を埋葬主体とする墳墓40基以上が確認され、佐賀市金立町久保和泉丸山遺跡とともに当該地域における縄文時代晩期から弥生時代前期の墳墓の様相を窺う良好な資料となっている。なお、この地域では、支石墓の系譜を引く墳墓は、弥生時代中期前半まで続く。南小路遺跡では、汲田期の甕棺の上部に長さ3.5 m、幅2.4 mの天井石が置かれていた。

当該期の墳墓は、多く発見されるが、集落に関連する遺構は、まだ少数である。春日遺跡で縄文時代晩期（夜臼期）の方形竪穴住居1棟が検出され、東古賀遺跡では、夜臼期から弥生時代前期の円形竪穴住居6棟が確認されているが、数は少ない。久池井六本松遺跡や北原遺跡では、夜臼期から弥生時代前期の溝状遺構が確認され、環濠となる見解が示されているが、部分的であり確実ではない。ただ、一本木遺跡等でも当該期の土坑等が確認されていることから、今後集落関連の遺構が発見される可能性は高いものと考えられる。

弥生時代中期に入ると、集落関係では、岡裏遺跡、惣座遺跡、春日遺跡等で住居跡が検出されているが、前時代同様、その数は少ない。なお、この時期、惣座遺跡で細形銅矛の鋳型1点が出土しており、この地域も青銅器生産に関係したことが判明している。

嘉瀬川左岸は、右岸に比べ、前期末から中期にかけての墳墓が少ない地域と考えられていたが、一本木遺跡から前期末から中期後半の甕棺墓を主体とする墳墓78基からなる墳墓群が確認された。ただし、副葬品は持たない。

弥生時代後期に入り、惣座遺跡や岡裏遺跡で集落が形成され、後期後半に入ると環濠が集落を巡る。惣座遺跡では、環濠の一部を半円形または方形に張り出す二重環濠が形成される。この環濠の張り出し部は、吉野ヶ里遺跡の北内郭・南内郭でも確認され、有明海沿岸に広く分布する。

弥生時代後期の墳墓には、甕棺墓や石棺墓、土壙墓があるが、概ね一定の群構成を取る。礫石遺跡では、甕棺墓（三津式）2基、石棺墓9基が検出されている。甕棺墓の副葬品として小型仿製鏡1面が副葬されている。久池井C遺跡でも後期の甕棺1基のほか、石棺墓・土壙墓10基からなる墳墓群が確認されている。当該地域では、副葬品を持つ墳墓は少ないが、惣座遺跡では、土壙墓に楽浪系の銀製指輪3点と約7,000点のガラス製小玉が副葬されていた。また、尼寺一本松遺跡からは、埋納とみられる中広銅戈1点が出土している。

古墳時代前期には、岡裏遺跡で直線的に延びる溝跡とこの溝に沿って竪穴住居が配置されており、居館の一部と推定されているほかは、集落に関連する遺構の検出例に乏しい。墳墓についても同様であるが、一本木遺跡でこの時期と推定される方形周溝墓1基が確認されている。

古墳時代後期に入ると、山麓部を中心に横穴式石室を内部主体とする古墳群が相次いで築造される。礫石遺跡では、古墳時代後期の横穴式石室14基と土壙墓3基が確認されている。また、久池井一本松遺跡でも横穴式石室9基、土壙墓1基を確認・調査している。なお、この時期に全長約60 mの前方後円墳である築山古墳が、平野部に築造される。

奈良時代に入り、当該地域に国庁跡が置かれ、国分寺跡、国分尼寺跡等の官衙関連施設が設けられる。肥前国庁跡は、104 m×77 mの築地と溝に囲まれており、内部には南門から前殿・正殿・後殿が置かれる。また、前殿の両側には、脇殿が置かれる。この整然とした建物配置を持つ国庁の成立時期は、これまでの調査から8世紀代中頃とみられていたが、大和町教育委員会が実施した調査の検討

では、本格的な建物配置が行なわれた時期は、９世紀前半代という年代観が示されている。この国庁跡の北側に当たる惣座遺跡では、大型の掘立柱建物跡が整然と配置され、正倉の可能性が指摘されている。同様な掘立柱建物跡群は久池井Ｂ遺跡や久池井六本杉遺跡で確認されている。

この国庁跡から東約 1.3㎞に国分寺跡が位置する。佐賀県教育委員会が実施した確認調査で、方２町の寺域が推定されているが、調査範囲が狭いため、その規模は確定していない。国分寺跡の西側約 300 mには、国分尼寺跡がある。北原・宝満遺跡の調査で、国分尼寺跡北東隅の築地と溝が確認され、方一町の寺域が推定されている。内部施設については、調査が及んでいない。

この国分寺跡・国分尼寺跡の南側を東西方向に肥前西海道が走り、鍵尼遺跡３次調査では、官道の側溝一部を検出している。この官道の推定ラインは、東古賀遺跡を貫くが、この遺跡では、官道は完全に削平を受けていることが、判明している。

国分寺跡に隣接する国分遺跡では、昭和３６年にロストル式の瓦窯が確認されていたが、町道建設に伴う文化財調査で、その一部を再確認することができた。また、東古賀遺跡、小川遺跡、北原遺跡等で奈良から平安時代にかけての掘立柱建物跡が確認され、官人層の居住域である可能性が高い。

なお、奈良･平安時代の土壙墓･木棺墓が礫石遺跡や久池井一本松遺跡等で比較的まとまって見つかっている。墳墓域を居住域から離れた位置に占地している可能性もある。築山古墳の墳頂部から瓦経を埋納した経塚が発見された。この瓦経は、六種の経典、奥書、仏画等約 231 枚で構成され、奥書には、天養元年（1114 年）に僧定照、清原氏を願主として記されている。

平安時代末から鎌倉・室町期にかけて、当該地域では、集落あるいは屋敷地とみられる区画溝が多数検出される。この地域で面的な調査を行なえば、当該期の遺構が検出される可能性が高い。報告書が刊行されている遺跡に限っても東古賀遺跡、小川遺跡、春日丘遺跡、一本木遺跡、国分遺跡、鍵尼遺跡、北原・宝満遺跡、岡裏遺跡、館遺跡等で遺構が確認されている。この時期の遺構が多数見られる背景には、国庁設置以後、佐賀の中枢であった本地域がその後においても引き続き佐賀の重要な地点を担っていたものとみられる。

（参考文献）

立石泰久『肥前国府Ⅰ（第一次～第三次発掘調査調査報告）』佐賀県文化財調査報告書第 39 集　1978

田平徳栄「久池井一本松遺跡」『礫石遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 91 集　1989

田平徳栄「礫石Ａ遺跡」『礫石遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 91 集　1989

田平徳栄「礫石Ｂ遺跡」『礫石遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 91 集　1989

田平徳栄「久池井Ｃ遺跡」『礫石遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 91 集　1989

田平徳栄「久池井一本松遺跡」『礫石遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 91 集　1989

田平徳栄「惣座遺跡」『惣座遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 96 集　1990

田平徳栄「久池井Ｂ遺跡」『礫石遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 91 集　1989

田平徳栄「春日遺跡」『礫石遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 91 集　1989

白木原宜『岡裏遺跡』大和町文化財調査報告書第 24 集 1994

松本隆昌『東古賀遺跡１』大和町文化財調査報告書第 71 集　2004

松本隆昌『東古賀遺跡２』大和町文化財調査報告書第 75 集　2005

松本隆昌『東古賀遺跡３』大和町文化財調査報告書第 76 集　2005

松本隆昌『肥前築山瓦経塚』大和町文化財調査報告書第 25 集　1994
田中稿二『肥前国分寺跡』大和町文化財調査報告書第 8 集　1989
田中稿二『小川遺跡－第 3 次調査－』大和町文化財調査報告書第 20 集　1993
田中稿二『久池井六本杉遺跡』大和町文化財調査報告書第 12 集　1990
田中稿二『尼寺一本松遺跡－南小路支石墓（遺構編）－』大和町文化財調査報告書第 35 集　1995
田中稿二『肥前国庁跡－遺構編－』大和町文化財調査報告書第 55 集　2000
谷澤仁『北原遺跡・久池井二本松遺跡』大和町文化財調査報告書第 37 集　2001
谷澤仁『国分遺跡』大和町文化財調査報告書第 63 集　2001
谷澤仁『久池井六本杉遺跡 2』大和町文化財調査報告書第 38 集　1996
山口　亨『一本木遺跡』大和町文化財調査報告書第 44 集　1997

第３章　調査の記録

１　調査の概要

春日丘遺跡は、佐賀市大和町尼寺に所在する。今回の調査地点は、肥前国分寺跡の北西側に位置するが、周知の埋蔵文化財包蔵地としての春日丘遺跡は、肥前国分寺の北側半分を下向きの「コ」の字状に取り囲んだ形となる。

春日丘遺跡東側には、小川遺跡、北側には、久池井二本松遺跡が所在する。また、調査地点の南側には館跡、西側には宝満遺跡、北西には、北原遺跡がある。春日丘遺跡の南 250 mには、古代の官道である肥前西海道が東西に走っている。この肥前西海道の南側にも鍵尼遺跡、北畑遺跡などがあり、遺跡が切れ間なく密集している地区である。

春日丘遺跡は、佐賀県立春日園の改築工事に伴い、平成２年に確認調査を実施した。その結果、中世期の遺構が確認され、平成３・４年の２ヵ年にわたり、旧大和町教育委員会が 5,700㎡を対象とした本調査を実施している。

この時の調査では、古代から室町期の掘立柱建物跡 23 棟、柵列６列、井戸跡 20 基、土坑約 200 基、区画溝とみられる溝跡や溝状遺構 25 条を検出している。出土遺物には、平安時代前期の土師器杯や黒色土器のほか、鎌倉時代の土師器や瓦器碗、白磁や龍泉窯系の青磁等の貿易陶磁器のほか、東播系須恵器捏鉢や備前焼、常滑焼等の甕が出土している。

遺構及び出土遺物の検討から春日丘遺跡が盛行する時期は、平安時代前期と鎌倉・室町期と推定されている。特に、鎌倉期の区画溝に囲まれた掘立柱建物跡の存在は、この地点が有力者層の居住域とみられ、文献の検討から当該期にこの付近を支配していた国分氏・鍵尼氏関連の遺構の可能性が指摘されている。

上記の調査以外に春日丘遺跡では、旧大和町教育委員会が平成６年に宅地造成に伴う発掘調査を実施している。この調査では、肥前国分寺跡の東部を流れる黒川の中洲部分約 1,000㎡を対象として、奈良時代から室町時代にかけての土坑 10 基、井戸３基、木棺墓１基、掘立柱建物跡１棟、溝跡８条を検出している。また。「小□（城ヵ）」と記された墨書土器も確認されている。

この宅地造成に伴う発掘調査は、春日丘遺跡３次調査として報告されている。春日園改築に伴う１・２区の調査に引き続き本調査を実施したことから、３次調査としたものとみられる。ただし、この３次調査地点は、今回報告を行なう春日丘遺跡から東約 400 m離れた地点にあり、遺跡の内容も異なることから、別地点扱いとする。

平成３・４年に旧大和町教育委員会が実施した調査地点を春日丘遺跡１・２区、平成 20 年に佐賀県教育委員会が実施した調査地点を春日丘遺跡３区として報告を行なう。

（参考文献）

松本隆昌編『春日丘遺跡－佐賀県佐賀郡大和町大字尼寺所在遺跡の調査－』大和町文化財調査報告書第 26 集　1994

田中稿二『春日丘遺跡－佐賀県佐賀郡大和町大字尼寺所在春日丘遺跡第３次調査の記録－』大和町文化財報告書第 42 集 1996

第２図　春日丘遺跡周辺の周知の埋蔵文化財包蔵地（1/12,500）

2　春日丘遺跡３区の調査

春日丘遺跡１～３区は、佐賀県療育支援センター（旧春日園）の敷地内に位置する。この場所は、戦後間もなく、児童養護施設である聖華園が建てられたが、昭和 28 年に知的障害児施設である春日園となった。また、平成 21 年４月には、通園施設である「くすのみ園」と統合され、佐賀県療育支援センターとなっている。

調査箇所は、標高約約 14 mの扇状地に位置する。遺跡の西側 400 mには、黒川がわずかに蛇行しながら南へ向け流れ、調査地点の西側には、南北方向に水路が設けられ、北原遺跡との境界となっている。昭和 30 年代以前の図面や写真によると、この付近は、水田や畑地、桑畑などがみられる農村風景が広がっていたが、現在は、佐賀市のベッドタウンとして市街地化が進み、往時の姿を留めない。

春日丘遺跡３区の調査区は、春日丘遺跡１・２区の北側中央部分に東西約 20 m、南北約 11 mの調査区を設定し、調査区の対象範囲を安全フェンスで取り囲んだ後、重機を用いて表土を除去した。現地表面から遺構検出面までの深さは約 0.6 mであった。遺構検出面の土壌は、粘性を帯びた暗茶褐色砂質土だが、下部に進むにつれ、漸移的に明褐色砂質土に移行する。土坑や柱穴等の遺構の埋土は、ほぼ、暗褐色粘質土である。

調査区には、旧建物跡の基礎や構造物、地中埋設の電線による撹乱が多数みられた。この撹乱は調査区の東側で多い。

確認された遺構は、掘立柱建物跡２棟、土坑１基、溝跡２条、小穴多数である。これらの遺構は、調査区の西側に集中する。調査区西側では、平成２年に実施したトレンチの痕跡が確認できた。

3　遺　構

ＳＫＯ１土坑

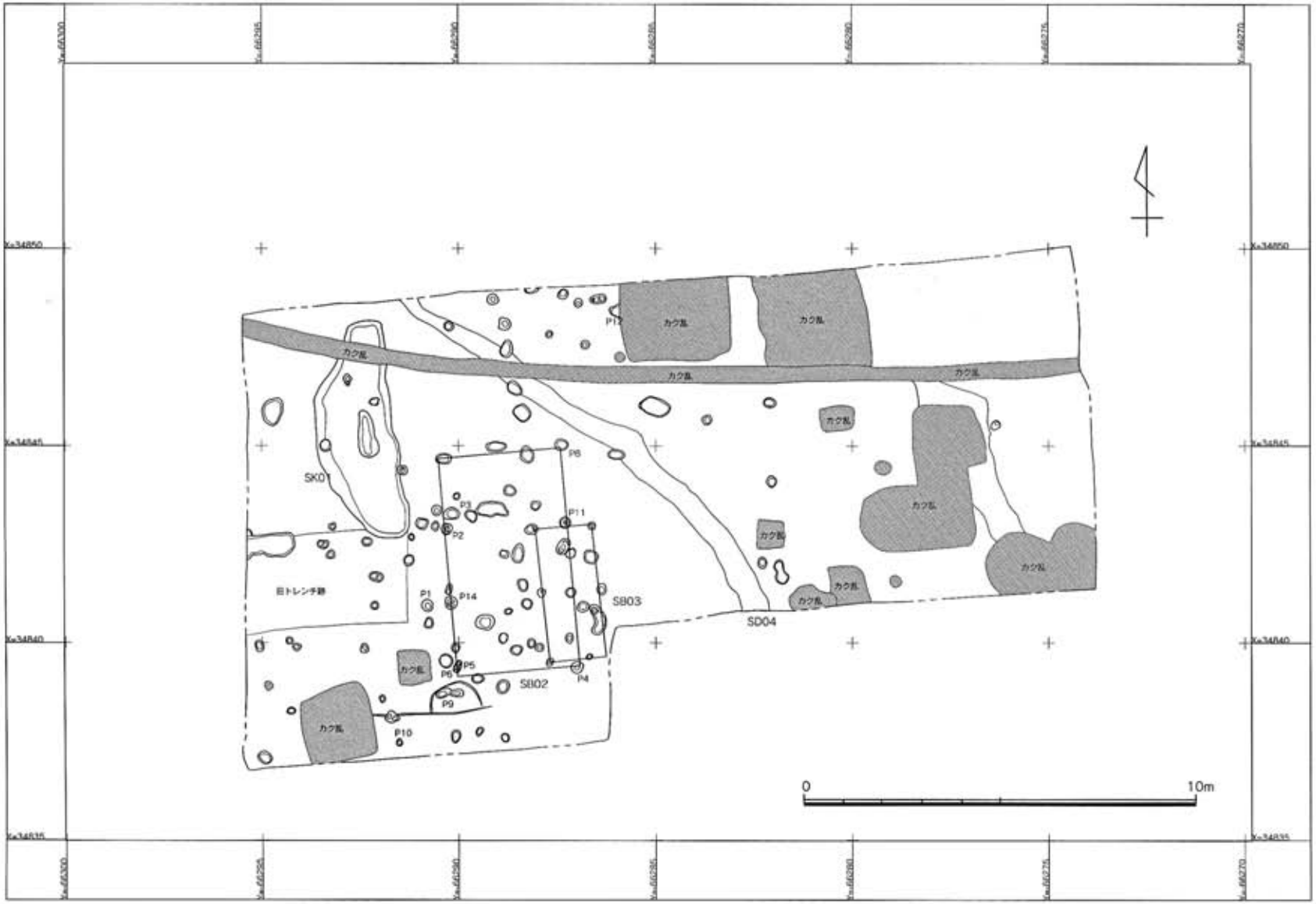
ＳＫ０１土坑は、調査区西側に位置する南北に長軸を持つ不整形の土坑である。北側の先端付近を東西方向に撹乱が走る。ＳＫ０１土坑の長さ 5.5 m、最大幅 2.07 m。検出面からの深さ 0.07 ～ 0.37 m。土坑の中央部が２段掘状に窪む。埋土は黄褐色ロームと花崗岩砂粒を含む暗褐色粘質土である。分層はできない。出土した遺物には、龍泉窯系青磁蓋の蓋破片のほか、同青磁碗片、白磁碗片、土師皿、土鍋片などがある。いずれも埋土上層からの出土。

ＳＢＯ２掘立柱建物跡

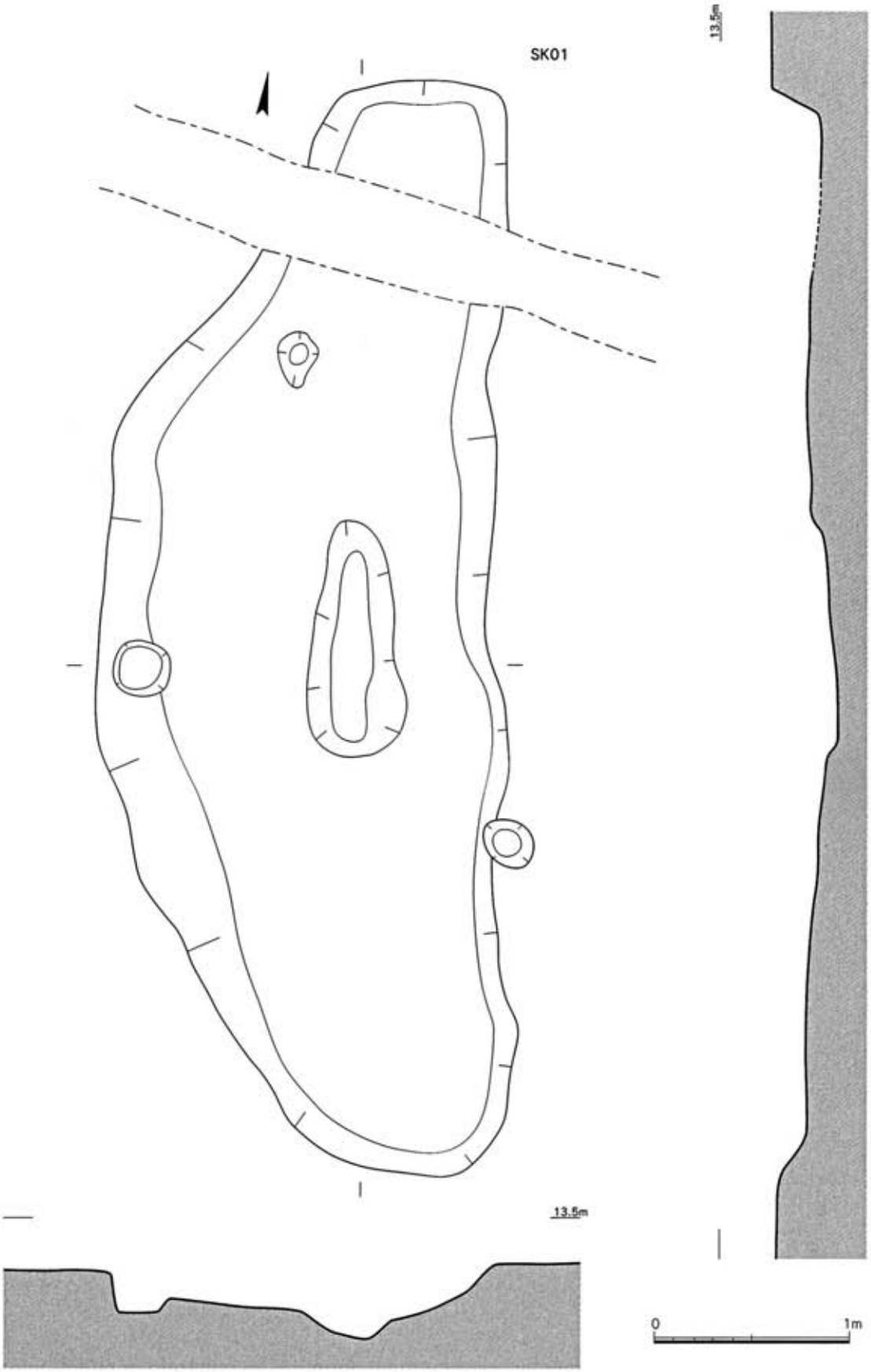
ＳＢ０２掘立柱建物跡は、南北方向に主軸を持つ１間×３間の掘立柱建物跡である。南北方向に主軸を持ち、Ｎ－３°－Ｗでやや西に傾く。梁行 3.0 m、桁行 5.5 m。柱穴の形状は円形を基調とするが、一部細長くなっている柱穴も存在する。柱穴の深さは 0.16 ～ 0.56 m。柱穴の埋土は、暗褐色粘質土。遺物は、ピット２とした柱穴から砥石１点が出土している。

ＳＢＯ３掘立柱建物跡

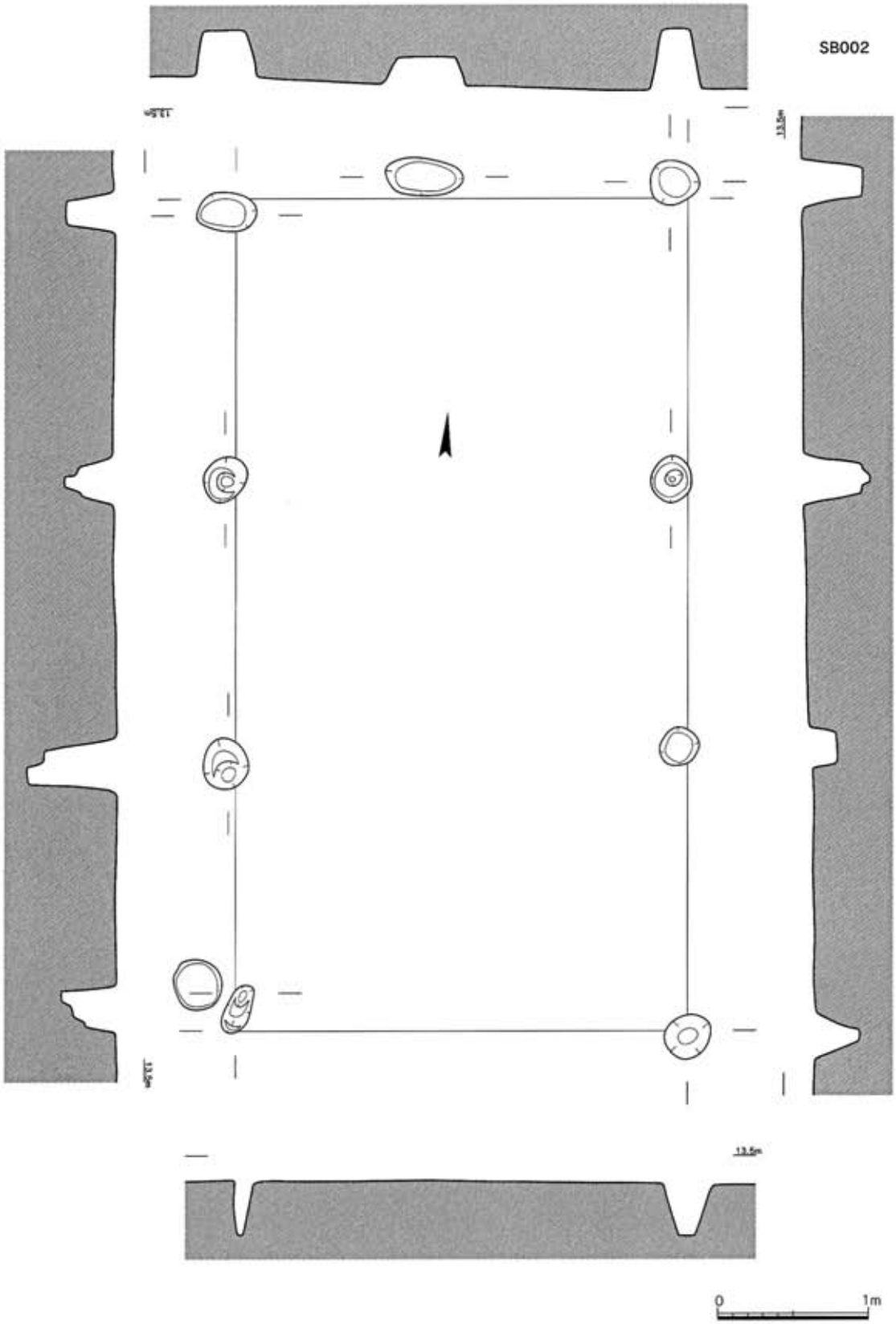
ＳＢ０３掘立柱建物跡は、南北方向に主軸を持つ１間×２間の掘立柱建物跡である。南北に主軸を持ち、Ｎ－３°－Ｗでやや西に傾く。梁行 1.5 m、桁行 3.4 m。ＳＢ０２掘立柱建物と重複する。柱穴は、円形を基調とする。深さは 0.3 ～ 0.42 m。遺物は出土していない。



第３図　春日丘遺跡3区　遺構配置図　(1/150)



第４図　SK01土坑・平面図・断面図（1/30）



第５図　SB02掘立柱建物跡平面図・断面図（1/40）

ＳＤ０４溝跡

調査区の西側をやや弧を描きながら南北方向に走る溝跡。幅 0.3 ～ 0.8 m。検出された全長約 12 m。溝の埋土は、茶褐色砂質土。当初、この溝跡は、地震によって引き起こされる噴砂の痕跡として考えており、空中写真撮影終了後に溝の断面断ち割りを実施した。断ち割りの結果、想定とは異なり、砂は地山の下部までは続いていないことが判明した。そのため、溝跡として取り扱う。

ピット１

ＳＢ０２掘立柱建物跡ピット 14 から 0.5 m西側に位置する径 0.3 m、深さ約 0.4 mの柱穴。柱穴の埋土は、暗褐色粘質土。このピットからは東播系須恵器捏鉢のほか、埋土から叩きを持つ甕片、土鍋片、土師皿の底部破片の遺物が出土している。

このピットは、規模と深さから掘立柱建物の柱穴の一部と考えられるが、このピットに対応する他の柱が周囲に見当たらないため、単独で取り扱う。

４　遺　物

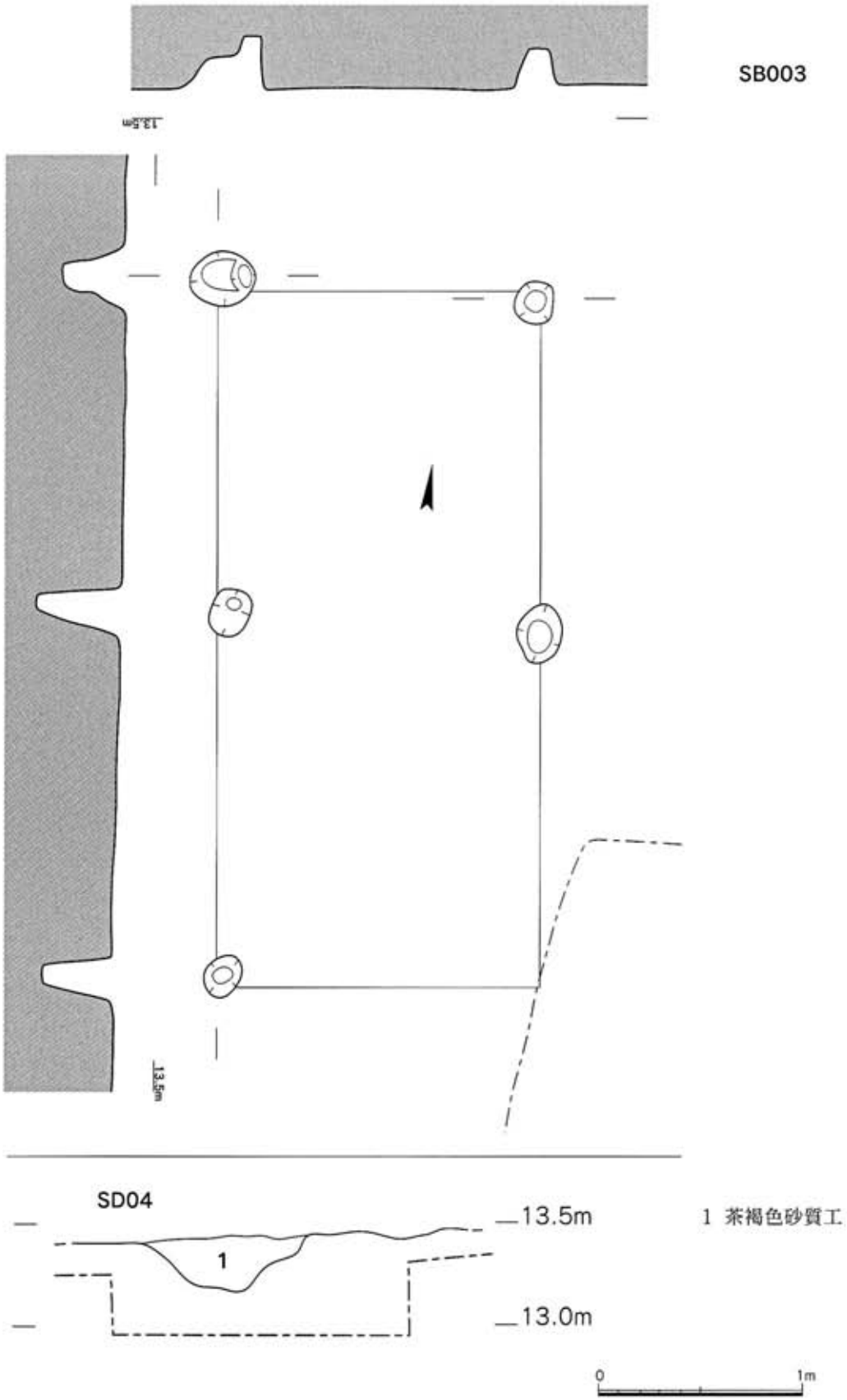
春日丘遺跡３区の調査では、土坑や柱穴等の遺構から土器や石器がコンテナ３箱分出土しているが、１・２区に比べ、その出土数は少ない。この３区での遺物の出土数の少なさは、この地区が遺跡の中心部でないことに起因するのかも知れない。

今回、３区で出土した土器・陶磁器・石製品２２点を図示した。１～６は、SK ０１土坑、９～ 17 は、ピット１。18・19 は、ピット１２。２０は、ピット３、21 は、ピット２、22 は、表採資料である。

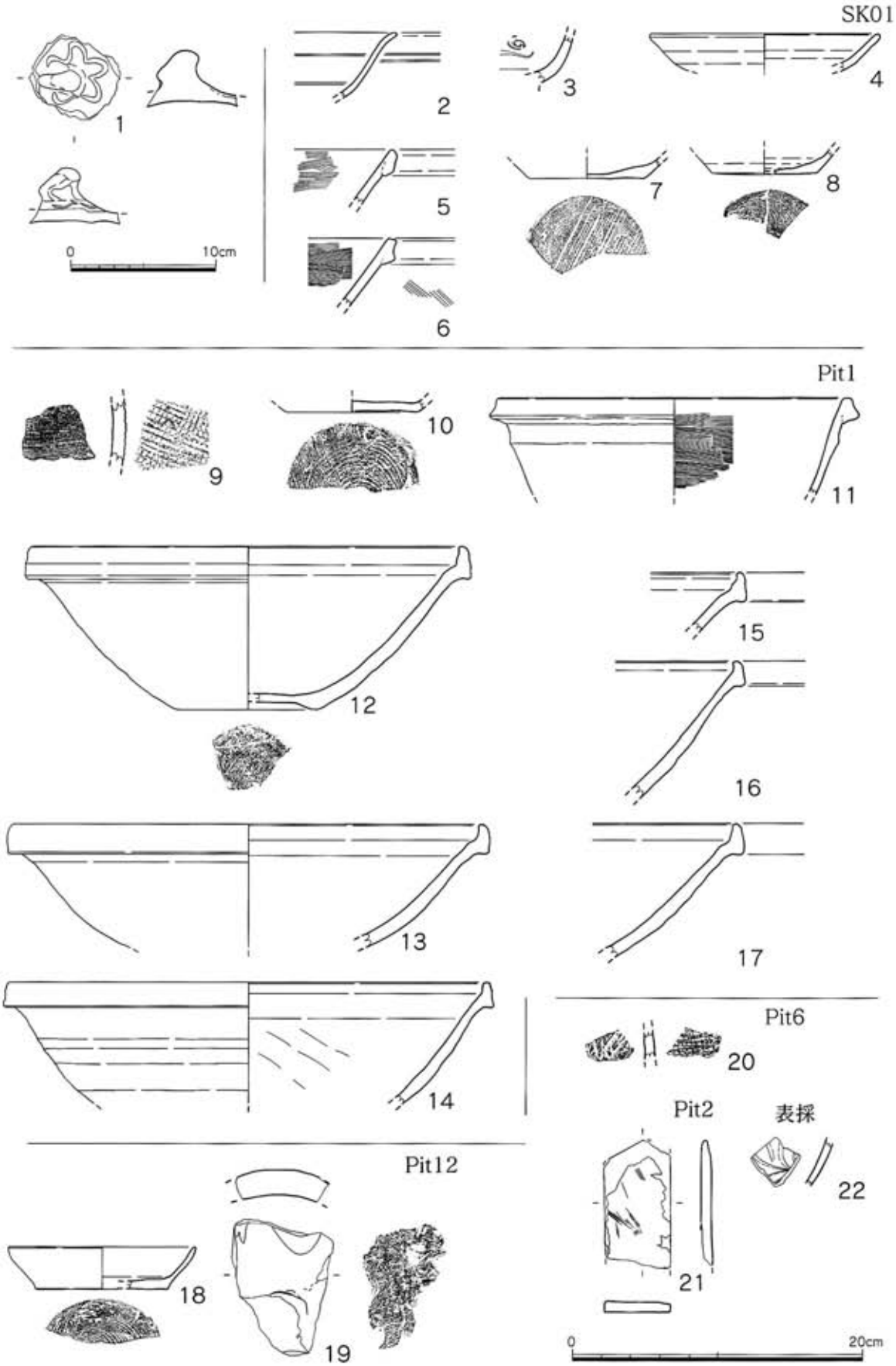
１は、青磁蓋の摘みの破片。花弁状文様に「L」字に折れ曲がった摘みが付く。果物のヘタを表現したものか。裏面は無施釉。２は白磁椀の破片。内外面にやや黄色みがかった釉薬を施釉。３は龍泉窯系の青磁椀の破片。その厚さから体部下半部か。胎土は灰色で、オリーブ色の施釉が施される。４は土師器杯。口縁部から体部にかけての破片である。外面の調整はヨコナデ、内面はナデ調整。焼成は良好。復元口径 15.8㎝。５・６は、土師器鍋口縁部破片。口唇部は、折り返され、ヨコナデが施される。体部外面はハケ調整。外面には煤付着。７・８は土師器杯底部片。７の底部には底部板状圧痕が確認される。復元底径 7.8㎝。８の底部調整は、糸切り離し。復元底径 7.2㎝。

９は、須恵器胴部片。外面は格子叩き目が施され、内面はナデ調整である。在地のものか。10 は、土師器杯底部片。底部には、糸切り離し後に圧痕がみられる。焼成はやや不良。復元底径 9.0㎝。11 は、土師器鍋。口唇部は、ヨコナデ、体部内面もハケ調整である。口唇部下部に稜が認められる。外面には煤が付着。復元口径 24.4㎝。12 ～ 17 は、東播系須恵器捏鉢。同一個体とおもわれる資料も含まれるが、図化し掲載した。12 は、底部から口縁部にかけての器形が分かる捏鉢である。やや、上げ底状の底部に直線的に開く体部付き、断面三角形状に肥厚する口縁部にいたる。外面の調整はヨコナデであるが、体部下部には、指押さえの痕跡を留める。内面の調整もヨコナデであるが、体部下部には、使用による摩滅が顕著である。口径 30.4cm、器高 11.2㎝、底径 9.0㎝。13 は、口縁部から体部にかけての破片。直線的に開く体部に肥厚する口縁部がつく。復元口径 33.0㎝。外面調整はヨコナデであるが、口唇部下部から指押さえの痕跡が認められる。内面調整は、ヨコナデで、内面下部には、使用による摩滅が認められる。

14 は、口縁部から体部にかけての破片。復元口径 32.8㎝。口縁部の形が若干異なるが、13 と同一



第６図　SB03掘立柱建物跡平面図・断面図（1/30）・SD04溝跡断面図（1/30）



第７図　春日丘遺跡3区　出土遺物　(1/2・1/4)

個体である可能性が高い。15 から 17 は、口縁部から体部にかけての破片。いずれも 12 ないしは、13 と同一個体の可能性がある。

18 は、土師器杯。器高 2.9㎝、復元口径 12.8㎝、復元底径 9.1㎝である。底部調整は回転糸切り。19 は丸瓦片である。内面に布状圧痕跡が認められる。

20 は、須恵器甕片である。外面に格子叩き目、内面に当具の痕跡を留める。21 は、P2 から出土した砥石である。長方形であるが、両端が折損しており、長さは不明。厚さは 0.3 ～ 0.6㎝と薄い。両面が砥石として使用されている。色調は、灰白色。

22 は、青磁椀片。体部の破片で、オリーブ色の施釉が施される。

第４章　まとめ

１　春日丘遺跡の調査

今回の春日丘遺跡３区の調査では、奈良時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物跡２棟、土坑１基、溝跡２条、小穴多数を検出した。ただし、奈良時代の遺構は、土師器杯と丸瓦片を出土したP12のみで、検出された遺構の多くは、鎌倉時代とみられる。これは、春日丘遺跡１・２区の調査成果とも対応する。

なお、３区で検出した正確不明のSD０４溝状遺構は、１・２区に向って延びているが、１・２区では検出されていない。ただ、当時の空中写真には、図化されていないものの、溝状にみえるラインが写されており、当時は、遺構として認識されていなかったとみられる。

今回の調査地区は、春日丘遺跡１・２区の北側の地点であり、鎌倉・室町時代を中心とする遺構の広がりが予想されたが、狭小な調査区のためか十分な調査成果があがったとは言い難い。第３章でも触れたが、当該調査区は、区画溝で構成される集落または屋敷地部分の縁辺部にあたるものとみられる。それでもこの調査区で掘立柱建物跡のほか、廃棄土坑みられる土坑が検出されたことは、当時広範囲に土地の利用が行なわれたことを示す調査となった。

この春日丘遺跡１～３区は、肥前国分寺跡と南北に延びる道路を挟み、その西側に位置する。国分寺跡の成立は、８世紀後半とみられるが、この春日丘遺跡では、その時期の遺構はほとんどみられない。国分寺跡に成立した直後は、春日丘遺跡部分は、空閑地のような場所であったと推定される。９世紀前半頃、ようやく土坑や掘立柱建物跡の存在が確認されているが、長く続かない。春日丘遺跡で土地の利用が本格化するのは、平安時代末以降の中世段階である。

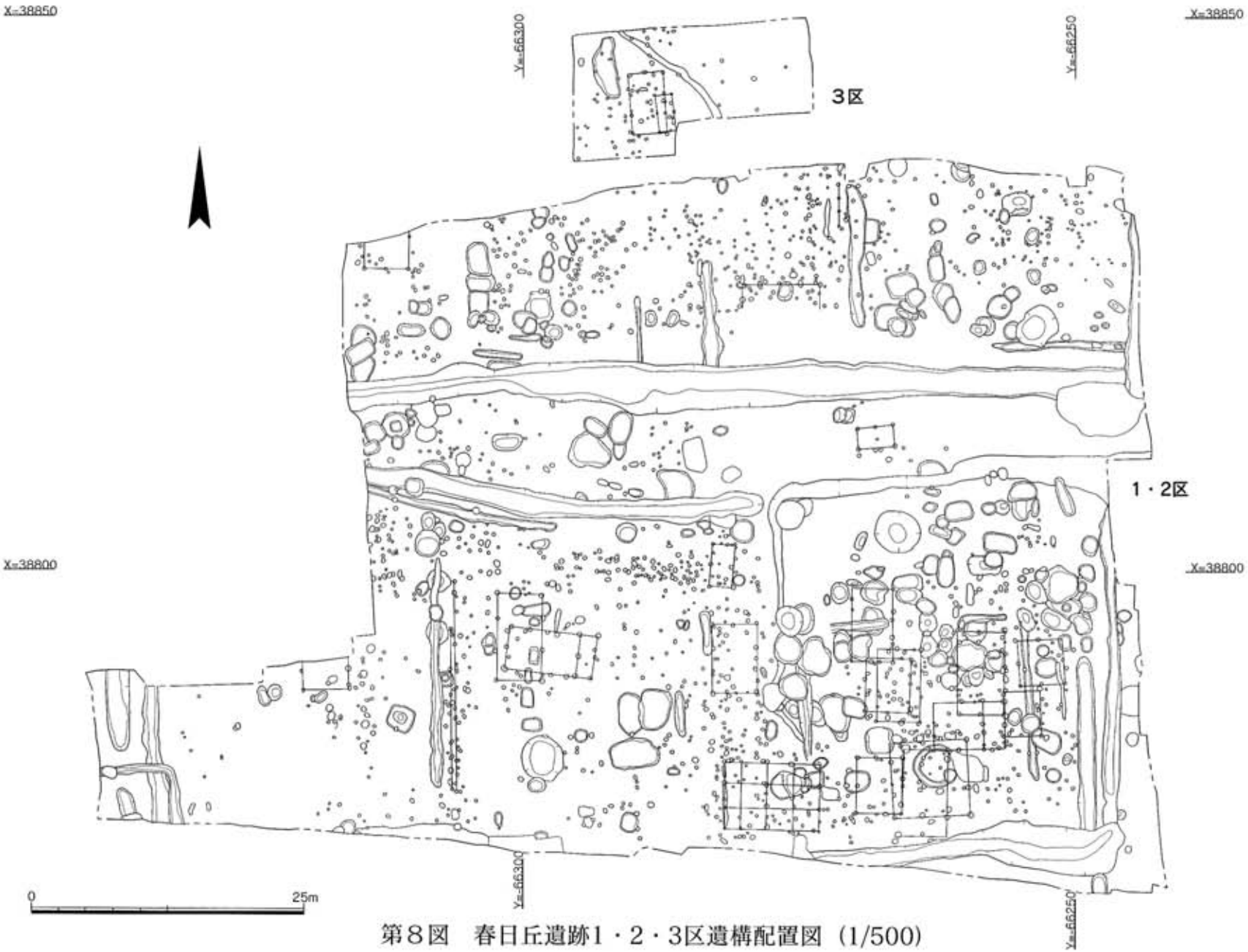
鎌倉時代から室町時代にかけて、春日丘遺跡では、区画溝を持った集落または屋敷地が営まれる。多数の掘立柱建物跡が切り合いを持って建てられるほか、井戸や廃棄土坑等も多数検出されており、遺物の出土量も対応するとすることから、比較的長期間集落が営まれたとみられる。

中世段階に長期間集落または屋敷地が維持される状況は、春日丘遺跡に近接する東古賀遺跡、小川遺跡、鍵尼遺跡、北原宝満遺跡、久池井遺跡、岡裏遺跡等でも同様であるとされる。ただし、その集落変遷の分析は、個別の遺跡ごとの検討であるため、同じ指標を用いての分析かどうか確認できない。同一の編年基準を用いて、再検討を行なえば、細かな集落・屋敷地の変遷や消長が追える可能性がある。

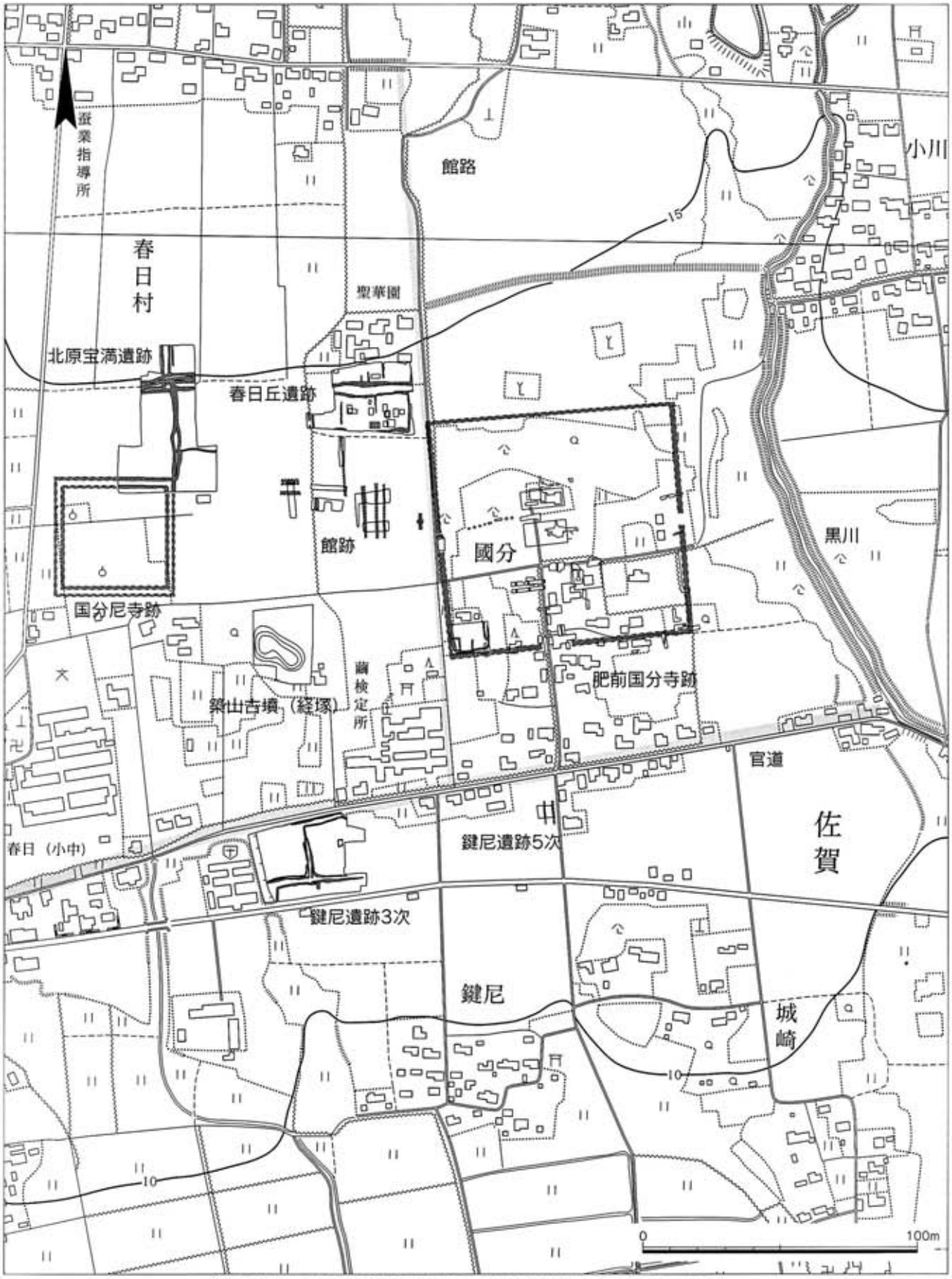
２　春日丘遺跡周辺の状況

佐賀市大和町尼寺付近は、佐賀市教育委員会や旧大和町教育委員会によって、確認調査や本調査が頻繁に実施されている。この調査成果をもとに、古代以降の遺跡に関して、調査地点の配置図が作成されているが、地形との関係が明らかでない。このため、終戦後、米軍が撮影した写真を元に作成された1/5,000の地形図に、春日丘遺跡を中心とする主な遺跡の調査区を入れ込んだのが第９図である。

この遺跡配置図をみると、官道と肥前国分寺跡がほぼ、その方位を揃えていることが分かる。また、この官道から延びる館路等の道路遺構は、ほぼ、直交する。また、中世段階においても遺跡で見られる区画溝は、官道や官道から延びる道路遺構と平行または直交することがあり、その築造等に関して、古代の官衙関連遺構に一定程度規制されていることが分かる。鍵尼遺跡５次調査は、官道の側溝と平行して、区画溝が形成されている。



第８図　春日丘遺跡1・2・3区遺構配置図（1/500）



第９図　春日丘遺跡周辺の遺跡配置図（1/5,000）

春日丘遺跡の区画溝についても、同様な傾向が見て取れる。国分寺跡西側を南北に延びる館路に直交・平行する形で区画溝が形成される。この関係は相互の遺跡でも関連すると思われ、春日丘遺跡とその西に位置する北原・宝満遺跡の区画溝は、若干南北にずれるが、同方向に延びる様子が窺われる。

このような作業は、精密な現在の地形図を使用することも重要であるが、最新の地図では、過去の地割りや土塁の痕跡、あるいは埋没した谷の状況などすでに失われた情報も多く、過去の集落域を復元するには適当でない。時間の制約から古代の官衙関連遺構とこれまでの調査の一部との繋がりについて、簡単な考察となったが、この春日丘遺跡を含む大和町尼寺周辺では、点の調査を繋ぎ合わせて行くことにより、面的な空間把握が可能になるものと推定される。

報 告 書 抄 録

ふりがな	かすがおかいせきーけんりつりょうようしえんセンターつうえんとうけんせつにともなうまいぞうぶんかざいちょうさー
書名	春日丘遺跡ー県立療育支援センター通園棟建設に伴う埋蔵文化財調査ー
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書
シリーズ番号	第184集
編著者名	細川金也
編集機関	佐賀県教育委員会
所在地	〒840-8570　佐賀県佐賀市城内一丁目1-59
発行年月日	2010(平成22)年3月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査 期間	調査対象 面積	調査原因
		市町	遺跡番号					
かすがおかいせき 春日丘遺跡　3区	さがけんさがし 佐賀県佐賀市 やまとちょうにいじ 大和町尼寺	410245				20080821 ～ 20080925	210㎡	県立療育支援センター通園棟建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
春日丘遺跡	集落跡	奈良、中世	掘立柱建物跡2棟 土坑1基 溝跡1条 小穴　多数	土師器、須恵器 輸入陶磁器 石器	中世の集落か

写真図版

春日丘遺跡３区全景（北上空から）

春日丘遺跡３区全景（上空から）

春日丘遺跡３区調査区西側（上空から）

SK01 土坑検出状況（南から）

SK01 土坑青磁出土状況（南から）

SK01 土坑完掘状況（南から）

SB02・03 掘立柱建物跡全景（南から）

SD04 溝跡全景（南東から）

SK04 溝跡断面（南から）

春日丘遺跡３区作業風景１（南東から）

春日丘遺跡３区作業風景２（東から）

1

3

4

5

6

7

春日丘遺跡３区出土遺物１

9

11

12

13

21

18

春日丘遺跡３区出土遺物２

佐賀県文化財調査報告書第 184 集
佐賀県療育支援センター通園棟建設に伴う
埋蔵文化財調査報告書

春 日 丘 遺 跡

発　行　日　平成 22 年（2010）年 3 月 26 日
編集・発行　佐賀県教育委員会
佐賀市城内 1 丁目 1-59
印　　刷　株式会社　三光
伊万里市大坪町乙 4161-1